

## ラテラノ条約

イタリア王国の政党、ファシスト政権（ムッソリーニ政権）下のイタリアと教皇庁（教皇ピウス11世）との間で1929年2月11日に結ばれた**政教条約**（場所：ラテラノ宮殿）。同年6月7日に文書が交換されて発効。

教皇庁はイタリア王国を承認し、イタリア王国はバチカン市国における教皇庁の独立と主権を認め、またカトリックがイタリアにおける唯一の宗教であることを認めた。

この契約は、ムッソリーニが率いるファシスト党政権が独裁権力を維持するために、カトリック勢力と和解した方がいいという打算で行われ、読み通り、ラテラノ条約締結はムッソリーニの英断と評価され、イタリア国内及び世界中のカトリック教徒に歓迎され、その権威を高めることになった。

ラテラノ（ラテラン）とはヴァチカン宮殿以前にローマ教皇の住居となっていた建物で、ローマのサン＝ジョバンニ＝イン＝ラテラノ大聖堂に隣接している（バチカン宮殿から5km程離れている）。そこで条約が調印されたので、ラテラノ条約という。

ラテラノ条約締結後「**バチカン市国基本法**」が公布され、その第1条において、「バチカン市国の主権者たる法王（＝教皇）は、立法司法行政の全権を有す」と宣しているが、これは従来の事実の法的形式を与えたまでであって、……ラテラノ条約は、いままで外からの圧力で十分な発揮を妨げられていた教皇（法王）主権を、正常に発揮できるようにしたところに意義があった。

後、1984年にラテラノ条約の改定が行われ、カトリック教会が国家に承認された特別な宗教であるという旨の部分が削除された。

### ▶契約内容

教皇庁のあるバチカン一帯が、世界で最も小さな主権国家が成立した「バチカン市国」としてイタリア政府から政治的に独立した区域となることが認められた。

イタリア政府は教皇庁に対し、対外的に永世中立であることと、イタリア国内の政党間の争いにおいて特定の政党に与しないことを求めた。

この条約では、イタリア王国が1870年にローマ教皇庁から奪ったいわゆるローマ教皇領に対して、賠償（補償）金9億4000万ドルを支払ってイタリア領であることを確定し、ローマ市内のサン＝ピエトロ大聖堂のある地域を、ローマ教皇を元首とするバチカン市国として独立させることを認めた。

また付属の協定で、イタリアはカトリックを唯一の宗教とすることで合意し、学校教育などでの宗教教育を復活させることを約束した。

またバチカンに駅を作り、イタリア国鉄と接続する路線を作ることも確認された。



### ▶経緯

1870年のイタリア王国によるローマ占領後、イタリア政府は当時のローマ教皇ピウス9世に対して、バチカンおよびラテラノ宮殿の占有を認めることと引き換えに政府に年額32万5千リラを支払うことを求めた。教皇庁側はカトリック教会が特定の政治権力の影響を受けないことを理由にこれを拒絶したため、イタリア政府と教皇庁の関係は断絶、教皇は自らを「バチカンの囚人」と称した。こうして、ピウス9世と彼以降の教皇がバチカンとローマ市内の限られた区域以外に足を運ぶことはなくなった（→「ローマ問題」）。

1926年、イタリアの権力を掌握するファシスト政権はバチカンに歩み寄る姿勢を示した。これを受けてバチカンはイタリア政府との交渉を開始、3年の交渉を経て1929年に政教条約（ラテラノ条約）が結ばれた。

契約調印に、イタリア王国はヴィットーリオ・エマヌエーレ3世の全権代理であるベニート・ムッソリーニ首相が、教皇庁は教皇ピウス11世の代理として国務長官のピエトロ・ガスパッリ枢機卿が臨んだ。

参考：ウィキペディア「ラテラノ条約」他、図：SANKEI DIGITAL INC

## 【参考】バチカン市国 (Vatican City State)



外務省 2022 (令和 4) 年 5 月 17 日現在データ

黄と白は教皇庁の衛兵の帽子の色に由来する。法王の冠と共に紋章に描かれている金銀の鍵はペテロの鍵と呼ばれ、イエスが弟子ペテロに言った言葉「あなたに天の国の鍵を授ける」に由来し、霊界と俗界の支配権を象徴するもの。



バチカンとは、「**教皇聖座 (Holy See)**」と「**バチカン市国 (Vatican City State)**」の総称。

1. 教皇聖座：カトリック教徒の総本山、また「教皇の国」を意味し、宗教機関でありながら、国としての側面も持つ (国連を含めた多くの国際機関に「教皇聖座」又は「バチカン市国」として加盟又はオブザーバー参加している)。
2. バチカン市国：「教皇聖座」に居所を提供している領域としての国家を指す。

### ▶教皇聖座 (Holy See)

- 1 定義 ローマ教皇及びローマ教皇庁 (政府に相当) を総称した概念。約 13 億人とも言われる信者を擁するカトリック教会の最高機関であり、国家としての側面も持つ。
- 2 元首 ローマ教皇フランシスコ (第 266 代、2013 年 3 月 13 日就任、アルゼンチン出身)
- 3 議会 絶対君主制のため議会は無し。ただし、議会に準じる司教会議 (シノドス) において、世界各地の上位聖職者がカトリック教会の指針について協議している。通常 1~4 年に 1 度開催。また特定のテーマに関する特別司教会議が開催されることもある。
- 4 政府 教皇の公務執行中央機関であるローマ教皇庁 (Curia Romana) が政府に相当する。  
最高機関は国務省で、内務省に相当する総務庁、外務省に相当する外務庁及び大使人事等を扱う在外公館担当庁等が設置されている。
- 5 略史

AD	略史
6 頃	ネロ皇帝の迫害のため殉教したイエスの使徒ペテロが、バチカンの丘に葬られる。
349	ペテロの墓の上に、聖ピエトロ聖堂建設。
756	カロリング朝ピピンによるローマ教皇に対するラヴェンナ等の都市の寄進 (教皇領の始まり)。
1870	イタリア軍、教皇領ローマに侵入 (「ローマ問題」)。
1929	イタリアとローマ教皇庁との間でラテラノ条約締結 (イタリアはバチカン市国を独立した主権国家として承認)。
2005	教皇ベネディクトゥス 16 世就任
2013	教皇ベネディクトゥス 16 世退位 (名誉教皇)、教皇フランシスコ就任

### ▶バチカン市国 (Vatican City State)

- 1 人口 615 人 (2018 年 10 月) (バチカン国籍保有者 (615 人) とバチカン国籍を保有せずバチカン市国に居住する者 (205 人) の合計は 820 人)
- 2 面積 約 0.44 km<sup>2</sup> (日本の皇居は約 1.15 km<sup>2</sup>)、市国外のイタリア領土内に治外法権を有する施設あり。
- 3 言語 公用語はラテン語。ただし、外交用には仏語、通常業務では伊語を使うことが多い。
- 4 元首 ローマ教皇 (立法、行政、司法の全権を行使)
- 5 宗教 キリスト教 (カトリック)
- 6 政治機関 教皇に立法権、行政権及び司法権が属する。①立法権は教皇の名の下にバチカン市国教皇委員会 (任期 5 年) が権利を行使、②行政権はバチカン市国教皇委員会委員長が教皇の名の下に、行政長官として行使、③司法権は教皇の名の下でバチカン市国の司法制度に設立された諸機関が行使。

## ▶外交・防衛

### 1 外交基本方針

(1) バチカンの外交目標は、キリスト教精神を基調とする正義に基づく世界平和の確立、人道主義の昂揚にある。そのための武力紛争の回避、人種的差別の廃止と人権の確立、発展途上国に対する精神的・物質的援助等がバチカン外交の特色とされる。

(2) 現在 183 の国・地域等と外交関係を有する（欧州で唯一、台湾と国交有り）。

特に、1989～1991 年にかけて東欧諸国と相次いで外交関係を開設又は再開し、1994 年 6 月、イスラエルとも歴史的な外交関係樹立を達成。近年では、ロシア（2009 年 12 月）、マレーシア（2011 年 7 月）、モリタニア（2016 年 12 月）、ミャンマー（2017 年 5 月）と外交関係を樹立（中国、ベトナム、サウジアラビア等とは外交関係未開設）。

(3) キリスト教各派の一致促進（エキュメニズム）運動を推進するとともに、世界諸宗教対話会合を 1986 年から開催。

(4) 欧州安全保障協力機構（OSCE）、国際移住機関（IOM）等には「教皇聖座」として加盟（ないし国連等にはオブザーバーとして参加）。万国郵便連合（UPU）、国際電気通信連合（ITU）といった技術事項を取り扱う機構には「バチカン市国」として参加。

2 軍事力 スイス衛兵が教皇身边と教皇宮殿を、市国警察がその他の警備に当たる（いわゆる軍隊は存在しない）。

## ▶経済

### 1 通貨 ユーロ

2 経済概況 主としてイタリアを始めとする EU 諸国からの輸入に依存。2015 年の教皇庁財政収支は 1,240 万ユーロの赤字。ただし、歳入は 7,400 万ユーロ（世界の教会から 2,400 万ユーロ、バチカン銀行から 5,000 万ユーロ）。なお、バチカン市国は 5,990 万ユーロの黒字（主な収入源はバチカン美術館の文化事業）。2015 年以降の財政収支は公式に発表されていない。教皇庁資産は非公開。

## ▶二国間関係

### 1 歴史

- 1549 年 フランシスコ・ザビエル、鹿児島に上陸。
- 1585 年 九州のキリシタン大名が派遣した伊藤マンショら天正遣欧少年使節が教皇グレゴリウス 13 世及び教皇シスト 5 世に拝謁。
- 1615 年 伊達政宗が派遣した支倉常長ら慶長遣欧使節が教皇パウロ 5 世に拝謁。
- 1942 年 日本とバチカン、外交関係樹立（終戦後一時途絶）
- 1952 年 日本とバチカン、外交関係再開。
- 1981 年 教皇ヨハネ・パウロ 2 世訪日
- 2019 年 教皇フランシスコ訪日
- 2022 年 日本バチカン国交樹立 80 周年

### 2 日本におけるカトリック信者数

約 43.5 万人（司教 27 名（その内、枢機卿 1 名、大司教 2 名）（2020 年）

### 3 要人来（直近のみ）

2019 年 モンテリーズィ枢機卿（即位礼正殿の儀 教皇特使）

ローマ教皇フランシスコ（東京、長崎及び広島）：パロリン国務長官、フィローニ福音宣教省長官、ペーニャ・パーラ総務長官、ギャラガー外務長官同行

### 4 在留邦人数 0 名（2021 年 10 月）

### 5 外交使節 (1) バチカン国駐箚特命全権大使 岡田 誠司

(2) 本邦駐箚ローマ法王庁大使 レオ・ボッカルディ